

## はやぶさ2 カプセル帰還へ

地球近くまで戻ってきた探査機「はやぶさ2」。調査した小惑星「りゅうぐう」の二つの岩が昨年、「イイジマ岩」「オカモト岩」と名付けられた。名古屋大で惑星

科学を学び、プロジェクトに貢献し、若くして亡くなった2人の研究者にちなんだものだ。「きっと見守ってくれているはず」。2人を知る研究者は、りゅうぐうの試料回収という快挙を前にあらためて思いをはせた。

(芦原千晶) = ①面参照

# 小惑星「りゅうぐう」に亡き研究者の名

イイジマ岩の名の由来となったのは、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の宇宙科学研究所助教だった故・飯島祐一さん。一九六八年生まれで、名大理学部卒。「勉強熱心で生意気なやつだった。初めて出会った学生の時から、研究のことも実験装置のこと

神戸大・特命技術員の白井慶さん提供



「オカモト岩」は、JAXA宇宙科学研究所研究員だった故・岡本千里さんから名前を取った。岡本さんは名城大卒。〇五年に博士課程で名大に進み、当時准教授だった荒川さんが指導した。

荒川政彦さん提供

## 快挙君がいてくれたから

もよく知っていた」。名大の研究室で三年先輩だった荒川政彦・現神戸大教授(五五)が笑いながら思い起こす。飯島さんは名大で博士号を取り、JAXAに移った後、二〇〇五年に直腸がんを患った。病状が進んでいた一〇年ごろ、家族の反対を押しながら、はやぶさ2計画に関わった。「飯島君は、はやぶさ2を良いプロジェクトにするの信念と情熱で、惑星科学分野の多くの研究者に参加を呼

イイジマ岩＝飯島祐一さん プロジェクトをオールジャパン態勢に

オカモト岩＝岡本千里さん 試料を採取する装置などを担当

「負けず嫌いで辛抱強い。姉御肌で、後輩に好かれていた」。博士課程修了後、JAXA A研究員になり、「はやぶさ2」に関わられてうれしそうだった(荒川さん)。着陸時に試料を採取する装置や人工クレーターを作る衝突装置を担当し、火薬などを使って繰り返し実験。装置について説明する時の誇らしそうな顔や、「こんな結果が出たので議論させ

てほしい」と報告する明るい表情を覚えているという。しかし、その後乳がんになり、はやぶさ2のりゅうぐう到着直後の一八年夏、三十八歳で死去。関わった試料回収装置が無事動いたことを見ることはできなかった。六日には、その試料が入ったカプセルが地球に帰還する。荒川さんは「どれだけ試料が入っているか、楽しみにしていたと話している。

び掛け、オールジャパンで取り組む態勢をつくった」。荒川さんも熱意に押された一人。りゅうぐうで人工クレーターを作る衝突実験の責任者になった。飯島さんは、衝突実験の様子を写すカメラの高性能化にも奔走。打ち上げ二年前というギリギリのタイミングだったが、「科学的な成果のためには必要だ」と周りを説得し、開発の道筋を付けた。その後、荒川さんに「転移が見つかって仕事ができなくなる。今の態勢で進めてほしい」とのメールが届いた。一二年冬に死去。四十四歳だった。はやぶさ2は一四年冬に打ち上げられ、昨年の衝突実験時には、そのカメラが無事動作。「やったあと仲間と抱き合いながらも、飯島君と一緒に喜びたかったと悔しくなると荒川さんは振り返る。カメラはクレーターができる様子を詳細に写し、成果は一流科学誌に発表された。

「負ける嫌いで辛抱強い。姉御肌で、後輩に好かれていた」。博士課程修了後、JAXA A研究員になり、「はやぶさ2」に関わられてうれしそうだった(荒川さん)。着陸時に試料を採取する装置や人工クレーターを作る衝突装置を担当し、火薬などを使って繰り返し実験。装置について説明する時の誇らしそうな顔や、「こんな結果が出たので議論させ